

新世紀ミュージアム

国内外の博物館・美術館におけるユニークな展示や革新的な活動を
紹介し、その多様なあり方と将来を考える連載がスタート。初回は、
カナダ歴史博物館の先住民展示に焦点を当ててみたい。



カナダ歴史博物館の全景

博物館と先住民とのかかわり

二〇一七年に建国一五〇周年を迎えるカナダは、ヨーロッパや中南米、アジア、アフリカを出身地とする多様な移民、そして先住民からなる多民族国家である。建国以来、英系と仏系のカナダ人が主流派であるが、多民族の共生を促進するため一九八八年に多文化

主義を国是とした。

カナダには国名を冠する人権博物館、移民博物館、歴史博物館などといった六つの国立博物館がある。そのうちカナダ歴史博物館は首都オタワに隣接するガティノウ市にあり、毎年一二〇万人以上が来館する観光名所でもある。かつての名称は人類博物館であったが、一九八〇年代半ばにカナダ文明博物館へ、さらに二〇一三年末に現在の名称へと改名した。同館はカナダの歴史を展示するとともに、多様な国民からなる国家の一体性を示すことをミッションとしている。

人類博物館の時代より、カナダ先住民文化の紹介を展示の核としてきた。

現在もその方針を継承しているが、二〇〇三年一月公開の先住民展示のときに大きな変化が見られた。そのきっかけは一九八八年のカルガリー冬季オリンピックの関連イベントとしてグリーンポー博物館で開催された「精霊は歌う」

うに展示すべきかについて白熱した議論と調整の連続であったと振り返っている。さまざまな政治的・文化的利害にもかかわらず展示内容について先住民族間の異なる意見の調整がもっとも頭を悩ますことであったようだ。

先住民との協働展示

この先住民展示は「文化的多様性」「先住民の存在」「大地との結びつき」「異人の到来」の計四つのセクションから構成されている。導入部の「文化的多様性」ではさまざまな先住民族出身者の自己紹介映像を流しているほか、地名や民族名、言語、分布などをパネルで紹介している。「先住民の存在」では、カナダにおいて社会的に活躍した先住民の芸術家やスポーツ選手、大学教授らを写真や作品、パネルで紹介した後、カナダ先住民の多様な衣類や靴、神話などを通文化的に展示している。

「大地との結びつき」は、カナダの西部極北地域の捕鯨文化、大平原地域の野牛狩猟文化、大西洋沿岸の漁撈文化、東部森林地域の農耕文化の伝統的生涯や交易活動を復元した地域別展示である。「異人の到来」は、先住民とヨーロッパ人との出会いから現在までの負の歴史と現状について先住民の視点を重ん



スポーツ選手など著名な先住民の紹介展示

展であった。その展示にはシェル石油社が資金提供をおこなったため、同社から環境破壊の被害を受けていた先住民ルビコン・クリーの人の人びとは、この展示およびオリンピックへのボイコット運動に立ち上がった。この事件が、カナダにおいて先住民と博物館との関係を見直すきっかけとなった。

先住民展示の大転換

そのボイコット事件の後、カナダの博物館における先住民展示の方針は、非先住民による一方的な展示から先住民との協働展示もしくは先住民自身による展示へと変換した。当時のカナダ



現代の先住民アートの展示

じながら展示している。また、現代のさまざまな政治運動やアート作品、先住民のユーモアも紹介され、明日への期待を読みとることができると。

カナダ歴史博物館の先住民展示は先住民と学芸員とが協議しながら創り上げた成果である。みんなの展示リニューアルでも現地社会からの助言をとり入れてきたものの、十分であるとは言いがたい。日本に住むわれわれはインターネットなどITを活用し、海外の文化の担い手らと常に意見を交換しながら協働展示を目指す必要があると考える。

(掲載写真はすべて二〇一六年七月に撮影)



大平原地域の先住民文化の展示